

て、高さ低き人家がたゞ黒く池の向ふに、其配合のよさ、得もいはれぬ中に、こんな喜にみちて歸つて行く人もあるのであつた。

左に掲ぐるものは、女子高等師範學校附屬幼稚園保姆田中ふみ子氏の手に成れる保育誌なり斯道に従事する人の参考となる節々少からずと考へたるに因り同氏に乞うて、其中の幾部を抜抄して掲載することとせり

一の組幼児保育誌

(三十五年四月より三十六年三月まで)

ふ み 子

(全体の幼児數四十五人、中女一男一の二人は四月小學校に移るべかりし年齢の兒なれども發達不良のたの今一年幼稚園にとゞまることになりしもの。四十三人は四月に於て滿五年以上六年末滿のものにして、内男廿四人女十

九人なり。而して此中に於て女三、男九の十二人は三十四年四月に入園し、他は廿三年四月に入園せしものなり)

一 保育の方法及成績の大要

保育の精神は三の組時代より引きつゝきて、体育に尤も重きを置き、次に徳育、智育といふ様になしたり、体育に於ては男女兒を問はず活潑に全身を活動せしめ、其間に自然に身体をして發達鍛練せしめんことを期したり。故に鬼ごと、かけつこの如く全身を動かす遊びを奨励したり。而して日常幼児の守るべき作法及規律は成べく少數とし、其の少數の作法及規律は嚴に實行せしめ、其他害なき限り幼児の意に任せたり。要するに範圍を廣くして橋壁をめぐらし、其外には一歩も踏み出すを許さず、廣き園ひの中に於て幼児の意ん様に振舞ふことの出来る様になせり。従て大人の眼

より見れば不作法の振舞をなす兒なきにあらざれとも強壯の兒おほく、出席も概して多數にして一年間の出席百分比は八十七なり。而して其不作法は六七才の幼兒としては左程批難すべきにあらざと思ひて許し置きたり。元來無言の内に自然に心情を涵養するにあらざして形式の方より幼兒相應の作法をやかましく要求することは、其の天真の活動を妨ぐることに甚しく、加ふるに可憐なる兒の軟弱なる神經を刺激すること著し。凡て作法に限ぎらず、何事につきても幼稚園時代の幼兒の神經を過度に刺激することは心身の發達上恐るべき悪影響を來たすものなるをもつて成べく無言の内に自然に感化せんことを期して保育したり。

德育につきては各兒を皆一つの鑄形に入ることを避け、成べく各々の特點を發展せしめつゝ全

體に於て良き方に向はしめんことを期したり。故に温かにして尤も無邪氣なるもあれは素朴剛勇なるもあり、親切なるもあり、非常なる整頓家もあり、滑稽にして頓才にとめるもあり、正直にして義侠心に富めるもあり、種々なりしが、全体の幼兒につきて希望したることは、最初入園の當時より引つゝきて重に一、從順 二、誠實 三、勇氣及自治 四、親切にして愛すること。の四徳なりき。本園幼兒の多數は中流の上以上の家庭の兒にて多くの召使にかしづかれ、中には教育の權さへ附添人の手にあるものあるをもつて、中には美しき家庭にてよく躰の出來たる兒もあれど境遇上自然に我儘にして依頼心強く、自治心に乏しく勇氣の欠くるもの普通なり。由てまづ一度約束したる事柄は保母も幼兒も互に何處迄も實行せんをを

とめたり、尙幼兒の出來得る限り自らの始末をなし、進んでは保姆の仕事を助けて働しめたり。而してこの二つの徳につきてはほとんど目的の處まで達したり。誠實、これは最初に於て全体不誠實の傾ありしといふ譯にあらざるをもつて二女兒一男兒の三人を除く外全体に向つては左程骨かりしにあらざる、三兒中一人の女兒は大に改まりしが男兒の方は心身發達と共に却て其度をますにあらざるかと疑ふほど無功なりき。而して今尙過去を追想して如何に取扱ひしならばとの良き考も出で來ず、只或は今一層この兒丈に接する時が多くありしならばと考ふるのみ。いま一人の女兒は大分改りたれどもこの後も引つゝきて特に注意する必要あり、親切にして愛することは豫め望みたる丈の處まで達せしむること能はず甚だ遺憾なり。これ

は第一に自然物及生物に對する同情を養ひ引きて總へての人に對して温かき情を有せしむるは自然なり。而して全体の兒が温かき情を有せざるにはならず、されど親切に他を世話することが足らざるなり、これ保姆が余りに自治心を養はんために出來得る限り幼兒自身をして自分のことをしまつせしめんことを獎勵し過たる弊と、また一には日常同年齡の兒とのみ接し年少の兒に接する場合少なかりしためなるべし。この組幼兒は已に小學校に送らざるべからず再び保育するの機會なし。不幸なるはこれ幼兒なり。新なる兒につきて大に注意せんとす。

智育につきては智識の注入はつとめて之を避け注入するものは分量を少くして、なるべく正確にしたり。而して他方に於ては幼兒自身をして自ら

心力を活かしめ其間各兒の心力相當に誘導したり。例へば羅生門の話をなせば木又は板にて羅生門といふ題目の下に各兒隨意に門を工夫せしめ。又畫方に於ては談にてきしもの又事柄を隨意に畫かしむる等のことをなせり。故に畫方の巧なる兒は綱の馬にまたがれる處を畫くもあり。羅生門の石段の傍に立札のある處を畫くもあり。然らざるものは鬼の腕、腕ををさめし箱、雨、立札、乳母の持てる傘、杖などを畫くもあり。其方に應じて種々なり其結果各兒興味をもちて各の力に應じて心力を活かしめたるはよろしかりしも其發達の度に於て多くの差を來したる。これは一齊教授をするに至りて教師の困難大なるべし。故に今少し一齊教授を受くるに適當なる様導き置くことの必要を感じたり。

尚全体に付て注意力の養成には大に注意したり。これ隨意遊嬉の時に全身の活動を獎勵したるをもつて、やゝもすれば室内に在つて仕事をなすときも身体の活動を欲するが如き有様ありしを以て、室内にては靜に体を落付け注意して心力を活かしめんとしたるなり。而してこはまづ成功したり。

幼稚園の遊戯 (その三)

松村 ひさ

(9) 遊戯に由て自分には何もできぬといふやうな心が子供にないやうになる
遊戯がよくいつて居ると、其間には子供の我儘もとれるし、又ひやみに自分を信じない兒即ち自信の弱い兒には自分といふ事を知らせて自信力が出